



日本の名城シリーズ その2

松前城 (通称 福山城)

この城は北海道渡島総合振興局管内松前町にあった平山城で福山城とも呼ばれる。

石田城と並び日本における最後期の日本式城郭である。戊辰戦争最末期に蝦夷が島の独立を目指す幕府の軍(元新撰組の土方歳三が率いていた)との戦いにおいて落城した。天守や本丸御門などが現存したが、天守は太平洋戦争後に失火により焼失した。旧城内一帯が国の史跡に指定されており、また、築城時から現存する本丸御門が国の重要文化財に指定されている。2001年には北海道遺産(福山城と寺町)に選定された。

築城1606年 廃城1875年(明治8年)

(ウィキペディアより引用)

「平成25年度」会報発行にあたり 《今こそピンチをチャンスに》



支部長
吉田 勝彦(32E)

東葛支部会員の皆様、
お元気ですか？

同窓会会報(第24号)支部だよりに記載の通り、早いもので当支部も会員皆様方のご支援をいただきまして、平成26年6月には設立15周年を迎えることになりました。

一方、財団法人千工会が一般財団法人となり支部への助成金の減額。年一度開催の千工祭もノンアルコールでの開催となっております。会員増も儘ならず、年々会員の高齢化等々…千葉工業同窓会も何やら暗いムードが漂い始めた昨今の様子です。

話は変わりますが、皆様ご存知の通り東日本大震災害に原子力発電の事故も重なり、避難を余儀なく過ごされておられる方々も多数おられ、満2年以上経過した今日でも先行き生活基盤がはっきりと見えていない状況です。

一日も早い復興を願う事は当たり前ですが、この戦後最大のピンチに遭遇した我々は何をすべきか、勿論、経済・建設・医療・物資面等々の復興が望まれることですが、スポーツの世界で良く言われる《ピンチをチャンスに》こんな言葉が頭をよぎります。

今の世の中あらゆる面で豊かな生活に慣れ、家族バラバラの生活、各部屋での冷暖房にテレビ。好みに合わない食べ物を捨てる等に加え、相手を思いやる気持ちがいつの間にか薄れてきたような気がします。

大震災を機に、自分を大切にしながら、相手のことを考え、助け合いの精神を育て、物を大切に、家族(同窓生)は互いにフランクな話し合いが出来る。こんな生活に今こそ帰ることが必要ではないでしょうか。

恐縮ですが、東日本大災害事故を例にあげましたが、伝統ある千葉工業同窓会のため、東葛支部活性化のため、自分自身の豊かな生活のため、行動する会員が一人でも多く出たら嬉しいと思っています。

定例会議兼新年会

恒例となった1月の定例会議兼新年会が、1月16日(水)7時から上野にある居酒屋店「めから鱗」で開催された。

通常は東葛支部の定例会議は奇数月に柏市高柳の近隣センターで開催されていますが、ここ数年1月は新年会を兼ねて開催しています。支部会員の方はどなたでも参加可能(費用は参加者個人負担)です。また、県外地区会員も参加しやすいようにとの配慮で場所が決められています。今年は関東も14日に7年ぶりとかの大雪になり、所々にまだ雪

が残る寒い日でありました関係か、参加者は12名と少なくその点では残念でした。



▲新年会会場 居酒屋「めから鱗」

支部長からの話、昨年は活動費の少ない中で何とか目標をクリアした事、平成24年度も残すところ2ヶ月半となり、今後の予定についての話があり、残り期間の活動を引き続き頑張ろうという事と、今期の総会(6月9日)に向け、その準備に参加者一同の気持ちがひとつとなりました。

その後新年会の始まり、飲み放題のため各自好みの飲み物の注文、なごやかで楽しい雰囲気の話が飛び交う中で盛り上がりました。宴会は20時頃にお開きになりましたが、有志による二次

会が近くにあったカラオケ店に席を移し、各々持ち歌の披露でまた違った雰囲気で一時を過ごしました。



▲二次会(有志でのカラオケ店)

同窓会本部主催麻雀大会

例年開催されている本部主催の麻雀大会が2012年10月27日(土)に千葉駅前の「麻雀 大都」で開催、参加費は一人3000円である。

当支部の事務局長である木間氏が兼務で同窓会本部の副会長となりレクリエーション担当として最初に手掛けられた。

冒頭、春に千葉市三支部合同開催の麻雀大会に元気で参加されていた第11代校長安藤氏、麻雀には参加していなかった第12代校長鈴木氏とお二人が亡くなったことに対し、そのご冥福を祈り参加者一同黙祷を行った。

競技内容は掛け金なしで半荘4回(1回55分で打ち切り)行い、支部対抗(上位3名の得点合計)と個人表彰があり、各々賞品が授与され



▲参加者集合写真

る。今回各支部からの参加者は32名、東葛支部からは6名(立崎氏26C、吉田氏32E、高橋氏29C、木間氏33C、鳴田氏34M、土屋34M)の参加があった。

初めに千葉市西支部の海保委員長からルールの説明が行われ、参加者の集合写真撮影後、抽選で選ばれた千葉市西支部吉野氏が競技者代表として宣誓を行い競技開始となった。

半荘終了ごとに成績を集計してその結果により席替えが行われ、次の半荘が開始される。

麻雀競技は上手な人も楽しみでやっている人も最初の意気込みは同じだと思えるが、その場その場の状況により意図したことが思い通りに進まない悩みが生じてくる。メンバーチェンジで新しい気持ちで立ち向かうが、気持ちとは裏腹で流れの良くない時はみじめな結果で終わる。しかし同窓生の仲間、先輩、後輩和気あいあいに楽しく競技の出来ることが何よりである。

17時頃競技が終了、直ちに表彰式となり支部対抗では、優勝千葉市西支部、準優勝東葛支部、3位南総支部となり、個人では、優勝鳴田氏(東葛支部)、準優勝古川氏(千葉市中支部)、3位阿部氏(南総支部)の方々であった。

▼支部対抗で準優勝を勝ち取ったメンバー



今回の大会では我が東葛支部が個人・支部対抗でも際立った活躍で参加者6名盛り上がった大会であった。

支部対抗で準優勝を勝ち取った要因は、個人優勝の鳴田氏、4位となった高橋氏、17位の吉田支部長3者の活躍によるものであった。

競技終了後は、有志の方々の参加で近くの居酒屋「さくら水産」に繰り出し親睦会、ここ

▼個人優勝の鳴田氏 (右側)



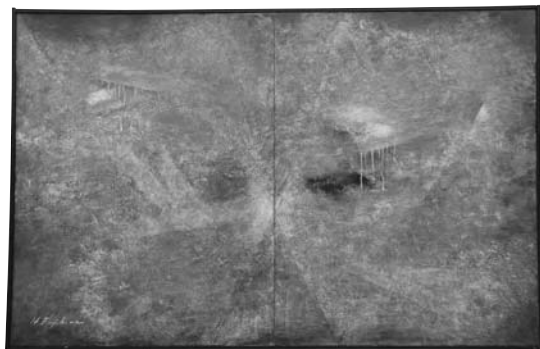
でも大いに盛り上がり楽しい時を過ごすことが出来た。

支部会員の皆様、この楽しい雰囲気の中で一日を有意義に過ごしたいと思われる方は参加して見ませんか、麻雀の上手い下手は別、点数は数えられなくてもよし、ボケ防止とも言われている競技です。連絡をお待ちしております。

同期の芸術家

土屋 孝夫(M34)

我ら34Mの同期仲間には画家が二人と彫刻家がいる。絵の展示会は年に春、秋の2度開催され、その時は有志14~15名集まって鑑賞に行く。鑑賞と言っても絵心の乏しいわが身では作品に対する評価は出来ない。皆集まってワイワイガヤガヤと騒ぎ立てるだけとなる。その後昼食を取りながら歓談し、時によって都内を散策することが楽しみとなる。



▲藤平氏の作品「再生はいつ」

2012年春の展示会は日程上仲間との日が合わなかったため、藤平画伯の展示には3/26単独で出かけた。会場は六本木の国立新美術館で開催された「日本アンデパンダン展」に出展された。

藤平氏の絵は抽象画なので、自分には評価することは難しいが、多分昨年発生した東日本大震災をモチーフに描いたものと推察した。

カラーで掲載出来ないのが残念だが、色づかいが気に入った。

川島画伯、彼は日立に勤務していた時から絵のクラブに所属していた関係で、日立OB美術展に出展している。会場は京橋にある「ギャラリーくぼた」で毎回開催される。川島氏の絵は写実画なのでわかり易い。いつもは居住地に近い奥多摩の風景や故郷の九十九里浜風景が定番であったが、今回は趣を変え大枚をはたい

て、高校時代の修学旅行以来の京都へ出かけたとのこと。

この展示会には同期の坂巻氏と松丸氏の3人で鑑賞に行った。画伯の言葉、機械科の人たちは寸法にうるさいので、池に写った金閣寺の描き方に苦勞したとのことであった。



▲川島氏作品「金閣寺」

両画伯とも次の展示を考えて次々と作品を手掛けるため、充実した第二の人生を送っているようだ。

木彫りの彫刻に関しては、東葛支部副支部長の坂巻氏、彼は仏像を彫ることが趣味の様だ。今年4月に彫り上げたと送られてきた千手観音像。手のひらにのる細かい一品等も含めどのくらいの日時を要したものか、本人は多く



▲坂巻氏作品「千手観音像」

を語らない。

今までにも何体かの仏像を彫っている。しかし自分の好みで作成した作品なので、現在まで展示会を開催して披露したとの話もない。本人だけの満足ではもったいない気がする。東葛支部総会の会場に展示して、出席された方々に鑑賞してもらうのも一考かと思う。ぜひ実現したいものだ。

千葉工業機械科を卒業して50年以上、当時を振り返ると三人が三人ともこの様な素晴らしい芸術家になるとは夢にも思いもしなかった。子供のころからの素質があり、長い年月の間に実現された芸術魂、素晴らしい趣味を持っている。何も持たない自分から見て羨ましく感じる。

子供たちとのふれあい

土屋 孝夫(M34)

私は現在住んでいる地域で、町会事業の一つ小学校下校児童の安全パトロールに数年前から参加している。ボランティアで行う事だが、何か問題が起こらないようにと暑い夏の日、北風が吹きまくる寒い日、雨の日は傘をさしての見回りの中々大変なことである。また、子供たちは交差する道に突然飛び出したり、石や空き缶を蹴りながら帰ってくることもあり、その都度注意をするがなかなか言う事を聞かない。

何かで知った言葉、「3つ叱って、5つ誉め、7つ教えて子は育つ」とあったが、誉めることは容易いが叱ることの難しさを常に感じる。

毎年3月初旬に「安全パトロール感謝の会」が開かれる。これは小学校の朝礼にパトロールの人たちが参加して、校長先生から感謝状をいただき、6年生の代表者からお礼の言葉があり、1年生の代表者数人からパトロールの人たちに朝顔の種が入った封書を一人一人渡され

る。この封書にたどたどしい文字で感謝の言葉が書いてある。

一つの行事と思えばそれはそれ。幾分緊張気味の孫(自分にはまだ孫はいない)のような子供から渡される封書を受け取る時は胸にせまるものがある。1年間大きな事故や事件に会わず過ぎ去ったことで良かったと思う気持ちがふつふつと湧いてくる一瞬だ。

「安全パトロール感謝の会」 2012年3月5日(月)



この行事で手にした朝顔の種、花の知識が乏しいわが身だが、撒いた種から今年は1株の芽が出てきた。貴重な一株絶対に咲いてくれとの祈りが通じ7月上旬に咲いてほっとした。花は可憐で弱弱しい、雨に会うと直ぐ萎れてしまうが、つるは強くすくすくと伸びる。

表紙写真に「城」を取り入れた事

前24号から開始した日本名城シリーズ導入について、紙面の都合で25号に掲載とした。

掲げた経緯は、インターネットで日本の城100名城を見つけ、編集委員の一員としてこれは良い、暫く会報の表紙写真選定に悩まないで済むと、安易な気持ちが生じたのが掛け値のない事実である。しかし、それを追いかけて始めると、観光旅行で行った時に会った城の数々、歴史とロマンが交わる中、自分勝手な思いで良いのだろうかとの疑問も生じ、役員会等で話したが、特に異論もなかったため、始めることとした。



学校で1年生に朝顔の育成観察をさせることがなんとなくわかるような気がする。

このつるのようにすくすくと育ち、元気な子供たちになる様に祈る。

そして新学期、新入生を迎える行事、1年生とパトロールの人たちの顔合わせ会が4月下旬の朝礼で行われ、また新しい子供たちとの触れ合いが始まる。

1年生とある日の会話

子供…叔父さん? 年いくつ

自分…72歳だよ、君たち7歳だから10倍だよ
子供…20倍ジャン???

考えるに7の10倍は70と理解出来てもそれを越すと20倍になってしまう、ワイルドだぜえ。

100名城を全て紹介するには数十年の年月が必要になる。

従がって、表紙だけでなく、いくつかの城をまとめて本文の中で紹介させていただくことも考えて行こうと思う。

戦国時代から安土桃山時代に3000近くもあったと言われる城郭は、1615年8月7日に江戸幕府が制定した法令「一国一城」、当時の老中土井利勝、安藤重信、酒井忠世の連判の元、徳川秀忠が発令した(法令の立案者は大御所徳川家康であつた)。この法令により城郭は約170

まで激減した。

そして、明治6年1月14日に明治政府から発せられた廃城令、今まで全国の城郭の土地建物については、陸軍省所管財産であったが、今後陸軍が軍用の財産として残す部分については、**存城処分**、すなわち引き続き陸軍省所管の行政財産とするも、それ以外については**廃城処分**、すなわち大蔵省所管の普通財産に所管替えし、大蔵省において処分すべしとした。存城処分となった城でも陸軍の兵営地等とする目的で城郭建造物が全て取り壊された「若松城」の例がある一方、天守等の主要な建造物やほとんどの遺構が現存し、国宝、特別史跡になっている「姫路城」の例がある。



▲ 国宝「姫路城」

軍用地となった城郭であっても、「彦根城」のように、明治政府の特例政策として城郭の土地と建造物が保存され、国宝、特別史跡となっているものもある。

また、廃城処分となった城は、建造物は取り壊され、土地は払い下げられた。ただし、犬山城や松本城のように、建造物が売却、取り壊しの対象になったが、それぞれの理由により現存し、国宝、史跡になっているものもある。

現在国宝としての城は姫路城、彦根城（この2城は、修復などを繰り返しつつ、ほぼ創建当時のまを維持してきたもの）。犬山城、松本城（この2城は、現存天守が在籍していた城が存城であったときに再建改築されたものが、ほぼ



▲ 国宝「彦根城」

そのまま残っているもの)の4城である。

そのうちの犬山城は、明治24年「濃尾大地震」によって天守が半壊するという大被害にあった。そのため、明治28年に修理を条件として県から旧藩主の成瀬家（徳川尾張藩の付け家老、成瀬正成以来9代に渡り明治まで城主として居城した）に譲渡され、成瀬家と犬山町民が義援金を募り、無事に修復をした。その後も個人所有として保存されていたが、平成16年「財団法人犬山城白帝文庫」の所有となり、現在に至る。



▲ 国宝「犬山城」

国宝4城の他に天守が現存している城は、下記に示す8城である。

丸岡城（福井県）、松江城（島根県）、丸亀城（香川県）、宇和島城（愛媛県）、備中松山城（岡山県）、高知城（高知県）、弘前城（青森県）、松山城（愛媛県）



▲ 国宝「松本城」

いろいろな運命にあった各城または城跡は現在では観光の名所となり、各地に点在しているが、復元される時、その姿は以前の風格を残しているように見えても、鉄筋コンクリート造りで資料館となっている城や、「夏草や、兵ども

が、夢の跡」と謡われているような、ただ石垣・堀などだけが残る城跡などもあり、城の運命もさまざまである。

思いつきで始めたことであるが、いろいろと調べていくうちに興味が増してきて、今後旅行などで訪れる時には、また今までとは違った観点から城と言う建物に出会うことになることだろうと思う。

今まで書いたことについては、インターネットから抜粋した記事と、一部自分の思ったことを述べさせていただきましたが、ここは違うよとの事がありましたら、ぜひ教えていただきたいと思います。

(一部ウィキペディアより引用)

日本の城について

城とは

敵に攻め込まれた際の防衛拠点として設けられた構造物。戦闘拠点であるとともに、食料・武器・資金の集積場所でもある。主要な城は指揮官の居所であり、政治や情報の拠点であった。純防衛用として山地に建築されることも多いが、街道や河川など交通の要衝を抑え利用することも多い、城郭とも言う。

日本における城は、古代の環濠集落から石垣と天守を持つ近世の城まで多様なものが含まれる。幕末の台場や砲台も、城に含まれることがある。造営は堀や土塁を築く普請と門や塀さくじを造る作事ふしんからなる。屋敷や櫓・天守も作事に含まれる。

一般的には城には次の機能がある。

- * 防衛機能……不意の攻撃や戦力に劣る場合、籠城する。
- * 支配の拠点……領地支配の象徴としたり、敵地への支配地拡大の前線基地とする。

* 君主の住居……通常の領主の生活の場であり、住民たちの拠点でもある。

城の構造

縄張り……築城に際しての基本設計を縄張りといい、その中心は曲輪の配置にあった。「縄張り」の語源も曲輪の配置を実地で縄を張って検証したことに由来するとされる。

近世にはいると、軍学者たちにより、様々な分類・分析がなされた。縄張りの基本的な形式としては、曲輪を本丸・二の丸・三の丸と同心円状に配置する「輪郭式」、山や海川を背後に置き本丸がその方向に寄っている「梯郭式」、尾根上に独立した曲輪を連ねる「連郭式」などがあるが、実際にはそれらの複合形を取ることが多い。

曲輪……堀や土塁・石垣で囲まれた区画を曲輪といい、城はこの曲輪をいくつも連ねることで成り立っていた。江戸時代には丸とも言

われた。防御の中心となる曲輪は本丸であり、他に二の丸・三の丸が設けられることが多かった。城によっては、櫓曲輪・水手曲輪・天守曲輪・西の丸（大名の隠居所）などが設けられることもあった。馬出が大規模化したものを馬出曲輪、ある城に隣接している独立性の高い曲輪は出曲輪、出丸という。大坂の役の真田丸や熊本城の西出丸といったものがある。

外郭 …… 城が中世の臨時的な軍事基地から恒久的な統治拠点になると、城下町や家臣団防備の目的で従来の城の機能的構成部分から、さらにもう一重外側に防御線が設けられることがあった。これを「外郭」または「外曲輪」「惣構」などと言う。普通、城と言う場合、内郭だけを指し、外郭は天然の地勢（山・河川）をも含むため、何処まで言うのか不明瞭なものもあった。

切岸・堀・土塁・石垣 …… 城を構成する基本的な防御施設として、初期の山城では切岸が用いられたが、やがて堀・土塁が多用され、石垣が多くなった。堀は水堀の他、空堀、畝状堅堀などの形態があり、土塁は堀を掘った土を盛って外壁とするものである。土塁の上部に柵や塀を設けることもあり、斜面には逆茂木を置いて敵の侵入を阻むなど、防備は厳重を極めた。石垣は中世においても城郭の要に一部用いられることはあったが、安土桃山時代になると、重い櫓を郭の際に建てる必要から、土塁の表面に石材を積んで強化した石垣が発達した。安土城以降は、土木技術の発達と相まって、大規模な石垣建造物が西日本に数多く建設された。

虎口 …… 城の出入り口を、虎口こぐちという。大抵は曲げられて造られることが多く、城門や虎口の正面に葦や芎しとみ かざしと呼ばれる土塁を設けてまっすぐ進めなくすることもある。城の正面の虎

口には大手門・追手門、裏の虎口には搦手門が構えられた。虎口は城兵の出入り口であるとともに、敵の侵入口にもなるため特に厳重に防備が固められた。虎口に墨壁で四角形の空間を形成して門を2重に構えたものを枳形虎口と言う。虎口の外側にある堀の対岸に、橋頭堡としてさらに堀で囲まれた小さな曲輪を造ることがあり、これを馬出と言った。

敵と対面する虎口の堀には土橋や木橋が架けられた。木橋の場合は、必要に応じて城内と場外、郭内と郭外遮断するために、木橋の板を外すか、または破壊することができた。特殊なものとして、あらかじめ可動式にした橋があったらしい。算盤橋や車橋などの郭内に引き入れる引橋があったと言われる。虎口の門柱によって橋を釣り上げる桔橋・跳橋もあった。

塀 …… 塀は曲輪内を仕切るほか、防御の目的で石垣・土塁の上にも築かれた。中世には土塀・板塀・塗込塀などが、近世には防火のため、漆喰塀・海鼠塀が用いられた。塀や櫓には矢・弾丸などを射出するための小窓が設けられ、これを狭間と言った。その窓の形により丸狭間・菱形狭間・将棋駒形狭間・鎬狭間・箱狭間などと呼ばれ、塀の下の石垣の最上部に切れ込みを入れるようにあけられた石狭間もあった。その用途によって矢狭間・鉄砲狭間・大砲狭間などと呼ばれた。

櫓 …… 櫓・矢倉は、物見台や倉庫、防備を兼ねた建物を言う。櫓は通常、番号、方位を冠して巽・艮（うしとら）・乾（いぬい）櫓などと言ひ、また用途などによって着見・月見・太鼓櫓などと呼ばれるものもあった。郭の角にある隅櫓、近世城郭では通常二重櫓、大きな城などでは小規模な三重櫓が用いられることもあったが、中には大坂城本丸にあった三

重櫓や熊本城にある五階櫓のように天守に匹敵する構造を持つ櫓があげられていた例がある。

天守……城郭の最終防衛拠点と位置付けられ、城の象徴でもある天守は、大型の望楼櫓が発展したとも言われる。名称の由来は、仏教の多聞天、梵天、帝釈天を祀ったところから命名されたものと言う説、城主の館を「殿主」「殿守」と言ったところから来たと言う説がある。しかも、天守の文献上の初見は、摂津伊丹城とするものや松永久秀の大和多聞

城とするもの、また、織田信長の安土城の天守とするものなどの説があり、起源についてはいまだに十分理解されていない。

多様な形式・形状の天守が築かれたが、築城のピークは関ヶ原の戦いの前後で、特に西日本には姫路城天守のように高さ20m前後から30m前後のものが築かれたのも特徴である。

(ウィキペディアより引用)

編集委員

巳年に関する民話

やましろの民話

宇治の三室戸寺には、参道の入り口に小さい橋がある。名を蛇体橋というてな、何でも雨の降る日には橋の裏側に、蛇の影が現れるのやそうな。ずっと昔のことや。山城の^{かぼた}綺田村に、三室戸の観音様を信仰している心の優しい娘がいた。

ある時、娘は村人が蟹を殺そうとしているのに出くわし、「魚の干し物をあげるから、逃がしてやっておくれ」と頼んで、蟹を助けてやった。さて、ある日のこと。その娘の父親が畑に行く時、蛇が蛙を飲み込もうとしていた。そこで父親は、「蛙を放してやりなさい。放したら、わしの娘をやるから。」と、蛇に言うたのや。蛇はすぐに蛙を放し、藪の中に消えていった。

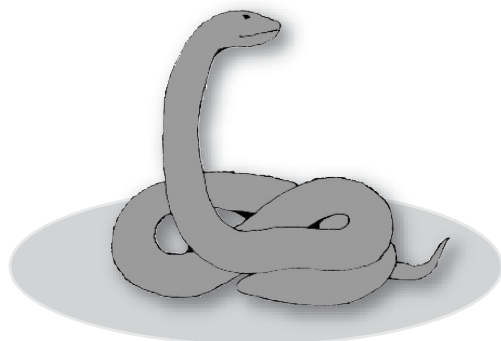
その夜、蛇はりりしい若者に姿を変え、父親の所へやってきた。「約束通り、娘を貰いにきたぞ。」父親はびっくりぎょうてん。「三日後に、来てくれ」と、言い逃れをして蛇をかえたのや。

三日後、娘は戸をしっかりと閉めて部屋に閉じこもると、三室戸の観音様を念じながら、一心に観音経を唱えた。恐ろしくて気が遠くなりそうなのを必死でこらえてな。外で娘を待ってい

た若者は、ついにしびれを切らし、蛇の姿に戻ると、尾で戸を打ち破った。「観音様！」娘が叫んだとたん、たくさんの蟹がこつぜん^{こつぜん}と現れ、はさみをふり立てて蛇に切りかかった。怒り狂う蛇を退治したのや。

翌日、娘は三室戸寺へお礼参りに、出かけた。娘が参道の橋を渡り、なにやら気配を感じて振り返ると、橋の上に蛇が横たわっていた。蛇は悲しげな目で娘をじっと見つめると、橋の裏側に回り、ふっと姿を消したのや。雨が降る日には蛇の影が現れる。いつしか人々は、この橋を蛇体橋と呼ぶようになったのや。

(蛇に縁のある三室戸寺インターネット引用)



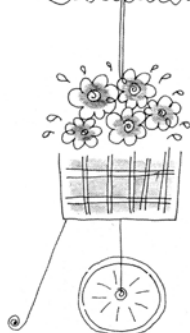
●皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・得

意な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

● ゴルフ	木間 英一	〒270-0002 松戸市平賀125-10	TEL.047-343-0455
● ハイキング 釣 り	木間 英一	〒270-0002 松戸市平賀125-10	TEL.047-343-0455
● 囲碁・麻雀	高橋 健一	〒270-0157 流山市平和台5-400	TEL.04-7159-9367
● スーパー 紙とんぼ	鎌形 武久	〒270-2241 松戸市松戸新田21-3	TEL.047-364-5084
● 茶 道	富田 博	〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516	TEL.047-393-0850

今後の予定



東葛支部の予定

平成25年	
3月30日(土)	定例会議(高柳近隣センター)
4月3日(水)	支部会計監査(高柳・かつ美)
5月18日(土)	定例会議(高柳近隣センター)
6月9日(日)	第15回支部定期総会 (我孫子・鈴木屋本店)
7月27日(土)	定例会議(高柳近隣センター)

本部関係の予定

平成25年	
4月21日(日)	同窓祭 母校
5月26日(日)	同窓会総会 母校
7月30日(火)	囲碁同好会 西千葉囲碁センター
10月15日(火)	ゴルフ同好会 真名CC
10月22日(火)	囲碁同好会 西千葉囲碁センター
10月26日(土)	麻雀同好会 麻雀・大都
11月16日(土)	ハイキング同好会 奥多摩・御岳山

編 集 後 記

2013年巳年が始まり早3ヶ月が過ぎ去りました。蛇は執念深いと言われるますが、恩も忘れず、助けてくれた人には、恩返しを行うと言われていています。

政界に於いては3年ぶりに自民党が復活し、安倍政権が誕生しました。政策として経済の回復、デフレ脱却を旗印に動き出しています。そして円安・株高となってきましたが、輸出産業は大歓迎で業績も徐々に上がってきました。反面輸入産業はガソリンの値上げ、小麦粉の値上がり等により消費社会に影響が出てきて、我々の生活が苦しくなっています。他の大きな問題として東日本大震災発生から3年目

を迎えました。被災者方々の復興はほとんど進んでいない状況です。エネルギー問題の一つ、原子力発電についても今後どうするか何も決定していません。他には沖縄の基地問題、対中国・対韓国問題、TPP加入問題、等難題は数多くあります。これらをどう解決するか簡単な事ではないと思います。

スポーツ界においては、元旦に行われた恒例の全日本実業団対抗駅伝、コミカミノルタが5年ぶりに優勝、箱根大学駅伝には日体大が30年ぶりに総合優勝、各々年初を飾る名門復活の偉業を果たしました。

最後になりますが、円安で我が千工会と同窓会に良い影響を与えてくれるものと期待して終わります。

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

1. 入会資格 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方及び千葉県外に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
2. 会 費 年会費 3,000円
3. 入会手続 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第26号の原稿募集

東葛支部会報第26号の原稿を募集します。

1. 発行予定 平成26年4月
2. 原稿締切 平成26年2月
3. 内 容 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
4. 投稿方法 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
5. 投稿先 編集委員長 坂巻 実 〒277-0921 柏市大津が丘2-4-1
TEL:04-7191-5927 E-mail:minoru.sakamaki@jcom.home.ne.jp
編集委員 土屋孝夫 〒213-0001 川崎市高津区溝口3-18-17
TEL:044-844-2767 E-mail:golf-t@tbn.t-com.ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:047-393-0850 E-mail:c-tomi@rr.em-net.ne.jp

東葛支部会報

第25号

発 行	平成25年4月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 吉田勝彦
事 務 局	事 務 局 長 木間英一
編集責任者	編 集 委 員 長 坂巻 実